

1906

わがの中

体操教室へかよつていた

三十代あう四十代のママのウラスだ

体操といふよりダンスのほうだつた

おんこおつりて行<sup>って</sup>た。ターニシ<sup>の</sup>す<sup>の</sup>お

おつりて何回もやつてた。

しがらくたつともしやたのちうとたつた

先生ヤグラス<sup>の</sup>コートと話をあつちうとたつた

この教<sup>室</sup>は年々<sup>新</sup>制服がハチ方といつていた

和はハチ方ご入会 出着たらしい

ハチ方で 云ういわね

とねたといふねた そのかえりさわ

気がつく

ハルバが申くすびむかふと来てい

これでは 奇なりといふあげてしやう

でもへにんは 奇なりかあて

人イ 奇くすたつて

手をあこれで 年<sup>経</sup>ておちかすといと思つてい

たう<sup>の</sup>うんたす<sup>の</sup>てい<sup>の</sup>う<sup>の</sup>てい<sup>の</sup>

と云つてしやう

でもおなじに

ハナすきだもろ

車イスあんなて 平素 平素と

見あふってくねた

夢を見ていんたに

夢の中の私は

少しわかつたように思っている

夢の中にも 若くありたいと 思っている

うしろの 花ものへの 思いが 夢に 出た

よう 啓

残っていたり 少すかり 若さの 足印をしよう

若さのこころ といふ かな ちふつと 心臓

2023  
8/13